



日本肝がん分子標的治療研究会
Japan Association of molecular Targeted Therapy for HCC



第10回日本肝がん分子標的治療研究会 共催シンポジウム

日時：2014年**6月21**日(土) 14:30~16:10

会場：講演会場(淡路夢舞台国際会議場 2F メインホール)
〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台1番地

【座長】 **國土 典宏** 先生 東京大学医学部 肝胆膵・人工臓器移植外科 教授
泉 並木 先生 日本赤十字社 武蔵野赤十字病院 副院長

ネクサバールが肝癌診療に与えたインパクト —5年間2万例の使用を振り返って—

術後補助化学療法としての分子標的薬の意義

【演者】 **高山 忠利** 先生
日本大学医学部 消化器外科 教授

BCLC Stage Bにおけるソラフェニブの立ち位置; TACEからの切り替え、使い分け

【演者】 **池田 公史** 先生
国立がんセンター東病院 肝胆膵内科 肝胆膵内科長

BCLC Stage Cにおけるソラフェニブの使い方; 動注療法との使い分け、コンビネーション

【演者】 **荒井 邦明** 先生
金沢大学 医薬保健研究域 医学系 恒常性制御学講座 助教

ソラフェニブの治療効果予測因子、バイオマーカー

【演者】 **竹田 治彦** 先生
京都大学医学部附属病院 消化器内科

総括発言; 新規分子標的薬剤の動向と展望

【演者】 **工藤 正俊** 先生
近畿大学医学部 消化器内科学 主任教授



共催：第10回日本肝がん分子標的治療研究会
バイエル薬品株式会社